

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690100247		
法人名	生活協同組合コープ自然派しこく		
事業所名	グループホームそのせ		
所在地	徳島県徳島市八万町下長谷259-1		
自己評価作成日	平成25年6月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通の生活が送れることを第一に考え、ひとりひとりにあった介護や支援に努めている。毎日の食事は安全な食材を使って、手づくりのものを提供している。地域の方とともにレクリエーションを楽しんだり、果樹園の庭を散策したりして、のんびりと過ごすことができるよう支援している。築9年目の木造の建物は、杉の色合いも落ちついており、過ごしやすい雰囲気がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に河川の流れる自然豊かな環境に位置している。事業所は、木造平屋建てとなっており、木のぬくもりを感じることでできる落ち着いた雰囲気がある。大きな窓や高い天井、中庭にはウッドデッキがあり、開放感と家庭的な雰囲気がある。事業所は、安心・安全な食の提供に力を入れており、母体法人である生協から自然派食材を購入している。家庭的なメニューによる食事は、利用者の楽しみになっている。管理者と職員は、利用者一人ひとりに寄りそって接している。家庭的な雰囲気のほか、人と自然との関わりを大切につつ支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そのせ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼や毎月のミーティングで話し合いをかさね、ひとりひとりの想いに寄り添う支援を心がけている。	管理者と職員は、朝の申し送りやミーティング時に理念を唱和し、共有を図ることで日ごろのケアへ繋げている。玄関に理念を掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会総会に出席したり、草刈や祭りなど地域活動に参加している。自治会や婦人会には、そのせのレクリエーションに参加してもらい、利用者とのふれあいの場を作り交流をしている。	月2回、地域のボランティアグループの来訪があり、利用者は阿波踊りや太極拳等を楽しんでいる。また、事業所として町内会に加入しており、地域の清掃活動や集会へ積極的に参加している。事業所主催の夏まつりでは、近隣へチラシを配布するなどして、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月4～5回の行事に参加してもらい、利用者とふれあいの機会をつくっている。運営推進会議の課題にも取り上げ意見交換をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	毎回議題を決めて話し合っている。地域の方々や有識者の情報や助言をいただき、できるところからサービスの質の向上につなげている。	年6回、運営推進会議を開催している。事業所の行事やサービスの実際等について、報告や意見交換を行っている。会議では、家族や地域住民の代表、市担当者等の参加があり、情報交換の場ともなっている。話しあった内容は、ミーティング時に全職員へ報告し、サービスの質の向上へ反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者から、運営や制度について資料の提供や相談をしながら、事業所のサービス向上にむけて取り組んでいる。	日ごろから、市担当者と密に連絡をとっており、事業所の運営面やサービス、対応等についてわからないことがあれば相談を行ってアドバイスを得ている。毎月、市担当窓口へ出向いて事業報告書を提出し、情報交換を行うなどして連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを基本とし、見守りを重視している。職員は周知していて、それぞれの利用者に添ったケアに取り組んでいる。	利用者一人ひとりの見守りを重視することで、身体拘束をしないケアの実践へ繋げている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合いをして、利用者のケアに注意をはらっている。職員がストレスを抱えたままにならないように話し合いの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			そのせ 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践研修等で学習している。現在、対象となる利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ていねいな説明をして、契約後もその都度相談に応じている。契約の改定については家族会で説明をして一方的にならないよう配慮している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に職員が聞く機会がある場合には、詳細を記録して迅速に対応している。家族会などで要望等聞く機会を設けている。	2か月に1回、家族会を開催し、季節の行事を併せて実施している。その際、利用者や家族が意見や要望を表出しやすいよう雰囲気づくりに留意している。出された意見には迅速に対応している。また、面会時にも、意見や要望を聞く体制を整備している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見を聞いている。日頃からのコミュニケーションを大切にして話しやすい雰囲気をつくるよう努めている。	毎月のミーティング時に、管理者は職員の意見や相談に耳を傾けている。勤務の都合等により、ミーティングに参加できない職員には、事前に意見や要望をノートに記載してもらするなどして、全職員の意見や提案を聞く機会を確保している。また、日ごろから何でも話すことのできる関係づくりに努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の改定に伴い、経験や勤務状況に応じた処遇改善をし、職員一人一人の悩みやストレスについて話す機会を設けている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得支援を設けて、職員の質の向上をすすめている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学や研修を行う機会を設け、サービスの向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	そのせ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人との面談をして、話を聞くことで状態や様子を伺うことを大切にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や困っていることなど聞き取りを行い、入居後どのような過ごし方を希望しているかを聞いている。できるだけ希望に添った具体的なケアを提案し、安心してもらえるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談して、情報収集し把握する。他の介護サービスを説明し、ケアマネと相談しながら対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が主役であり、職員は共に暮らす者同士のつなぎ役であることを認識しながら、安定した生活を送れるケアに取り組んでいる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡を取り、本人の希望や要望が可能なかぎりできるように、家族と相談しながら職員が調整役として支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を活用した、利用者の生活習慣を把握するよう努めている。親戚や知人の来訪があり、年賀状やお墓参りなどの支援をしている。	事業所ではセンター方式を取り入れ、利用者一人ひとりの生活習慣の把握に努めている。職員は、利用者の馴染みの人へ年賀状を出すことを支援したり、生まれ育った場所への外出を同行支援したりして、関係を継続することができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、より円滑な関係の構築に向けた支援をおこなっている。穏やかな関係を保てるテーブルの席順や、体調を気づかう声掛けなどに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			そのせ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方を訪ねて、様子を伺い相談や支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用や、本人と家族からの情報と日頃の介護記録を職員が共有し、本人本位の支援に取り組んでいる。	事業所では、センター方式のアセスメントを導入することで利用者の思いや意向の把握に努めている。また、利用者の些細な表情や行動の変化等から、思いを汲みとるよう努めている。利用者一人ひとりの意向に応じたケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りやセンター方式を活用して、情報の把握に努めている。また、日頃のかかわりの中で利用者を観察し、意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に毎日の出来事や気づきを記入して、申し送りを行い、一人ひとりの状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や医師、ケアマネ、管理者、介護担当者などから出された意見を参考にしながら介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの状態に応じた介護計画となるよう、利用者や家族、医療関係者、職員等で意見を出しあっている。3か月に1回、介護計画の見直しを行っている。利用者の心身状況に変化が見受けられた際には、そのつど見直ししており、一人ひとりの現状に応じた介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調の変化やケアの工夫、結果、エピソードを記録し、職員は確認、情報の共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のやりたいことや、家族とケア担当者の話し合いのできることから、柔軟な対応に取り組んでいる。ボランティアの協力体制もある。		

自己	外部	項目	自己評価	そのせ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		運営推進会議で地域の方々や警察、消防団にも情報や助言をもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		2週間に1回、協力医による訪問診療がある。また、医師と24時間体制で連絡がとれ必要時には受診を行っている。入居時は、本人や家族に説明し、希望する主治医を選択してもらい、受診の対応をしている。		2週間に1回、協力医の往診がある。24時間体制で緊急時の対応に備えている。また、事業所に看護師を配置し、看護支援と協力医との連携体制を整備している。他科の受診時には、家族や職員の付きそい支援による体制を構築している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		看護職員を配置し、利用者の健康管理、状態に応じた支援を行っている。利用者の変化など気づいたときは、看護職員に相談し、早期発見・対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入院する際は職員が付添い、家族とともに医師の説明を聞いている。医療機関へは情報提供を行い、職員が面会をし、状態・状況を把握しながら受け入れ体制が整えるよう関係者と話し合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		急変時の対応を確認している。利用者の病状の変化はその都度医師に連絡し、家族に報告している。		入居時の段階で、重度化に至った場合や終末期の対応のあり方について、書面で説明を行っている。急変時の受診対応についても、事前に確認を行っている。また、利用者一人ひとりの対応について、協力医と検討を重ね、情報の共有を図っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		消防署の協力を得て、救急救命訓練、応急訓練を実施し、AEDの使用の実践力を身につける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		消防署の協力を得て、定期的に消火訓練や避難訓練を実施している。放火の危険性の対処として、ごみ出しに注意すること職員全員周知している。災害時のマニュアルは新しく作成している。		年2回、消防署の協力を得たうえで、利用者とともに避難訓練や消火訓練を実施している。災害時に備えて食料等を備蓄している。また、災害時の避難場所として地域の集会所を確保している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			そのせ 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを守ることを大事にし、一人ひとりに合わせたいいいな声掛けを行っている。	事業所では、利用者一人ひとりのプライバシーを損なうことがないよう、声かけやさりげない対応に努めている。また、職員は外部研修へ参加するなどして、知識の獲得や資質の向上へ繋げている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声かけとコミュニケーションを図り、思いや希望を聞き出すように努めている。また、表情や反応をみて自己決定ができるように支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合ったリズムや習慣を大事に、体調の変化や気分により、その日に過ごし方を決めている。また、本人の希望も配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容をお願いして、好みに合わせたカットをしたり、女性は化粧、男性は髭剃りをしてもらい、楽しんでいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には簡単な調理や配膳、テーブル拭きをしてもらい、職員と一緒に食事をしている。会話や声かけをしながら、温かな雰囲気づくりを大切にしている。	事業所では、母体法人である生活協同組合から食材を購入し、利用者へ安心・安全な食事を提供できるよう取り組んでいる。また、食事の際、利用者の残存能力に応じた役割を担ってもらい、大切な活動のひとつとしている。誕生会には、家族にも出席してもらってケーキと一緒に食べるなど、楽しい雰囲気づくりも大切に支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量を把握し、その日の状態に合わせた食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや入れ歯の洗浄を利用者の状態に合わせて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	そのせ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、利用者の排泄パターンやサインを把握して、トイレ誘導を行っている。	利用者の排泄パターンの把握に努めている。一人ひとりの表情やしぐさなどを注意深く見守りし、トイレへの誘導へと繋げている。事業所では、利用者がトイレで気持ちよく排泄することができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事献立を工夫し、利用者によっては、牛乳やヨーグルトで水分補給をしている。日中はレクリエーションや体操等で身体を動かす、便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望により入浴できるように支援している。入浴の声かけや移動、脱衣、入浴、更衣の一連の流れは一人の職員が担当している。	事業所では、原則として2日に1回の入浴を支援している。利用者に声かけを行い、個人浴と集団浴から選択してもらうなど、一人ひとりの希望に応じた入浴を支援している。また、ゆず湯等を活用し、季節を感じつつ、くつろいだ気分で入浴を楽しんでもらうことができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きて活動を促し、夜間に休息を取ってもらう生活リズムを整えるよう支援している。体調によっては居室で休息してもらうこともある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容は介護記録に記載し、必要時すぐに確認できる。また、服薬ファイルに薬の作用や副作用を記載し、全職員が把握するようにし、変更時は申し送りをしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、裁縫、布団干しなどの家事を手伝ってもらっている。散歩に出掛け気分転換の支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員との散歩や、家族とお食事やお墓参りにお出かけしている。	事業所では、本人の希望に応じて散歩等へ出かけている。また、家族の協力を得たうえで、外食や墓参りなどの外出も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	そのせ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		家族と相談して、本人の希望や能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		フロアに電話を設置して、希望があれば、いつでも電話がかけられるように支援をしている。年賀などはがきの購入や投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		共用空間は対面式キッチンと畳コーナーがあるリビングで、大きな窓から四季折々の花が咲く中庭が見える。	事業所は、木造の建物となっており、木のぬくもりを感じることで居心地の良い雰囲気がある。ホールの大きな窓からは、中庭の四季折々の花を眺めることができ、過ごしやすい採光環境を整備している。浴室にも、木を多く用いており、家庭的で安心感のある環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		畳コーナーやソファ、中庭のデッキにパラソルテーブルなど、いろんな場所でくつろげる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		使い慣れた家具や調度品を持ち込み、本人の生活スタイルをできるだけ変えないようお願いしている。また、家具の位置や布団の向きなど、本人の意向にあわせている。	利用者は、仏壇や家具等、一人ひとりの使い慣れた品物を居室に持ち込んでいる。家族の写真を飾っている利用者もあり、落ち着いて過ごすことのできる工夫を行っている。また、本人や家族と相談し、ベッド等の配置を決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		本人や家族の了承を得て、各部屋に表札をつけてもらい、トイレも認識しやすいように「便所」の表示をしている。		